好色增鏡

貞享二年印本
全五巻合一巻

特別
へ13
4192

京都帝国大学図書

好きこの道境同縁

一 不[illegible]
神や[illegible]

二 [illegible]
[illegible]

三 神乃[illegible]合
[illegible]

四 [illegible]
八[illegible]仕合

58 2065

六　[illegible]

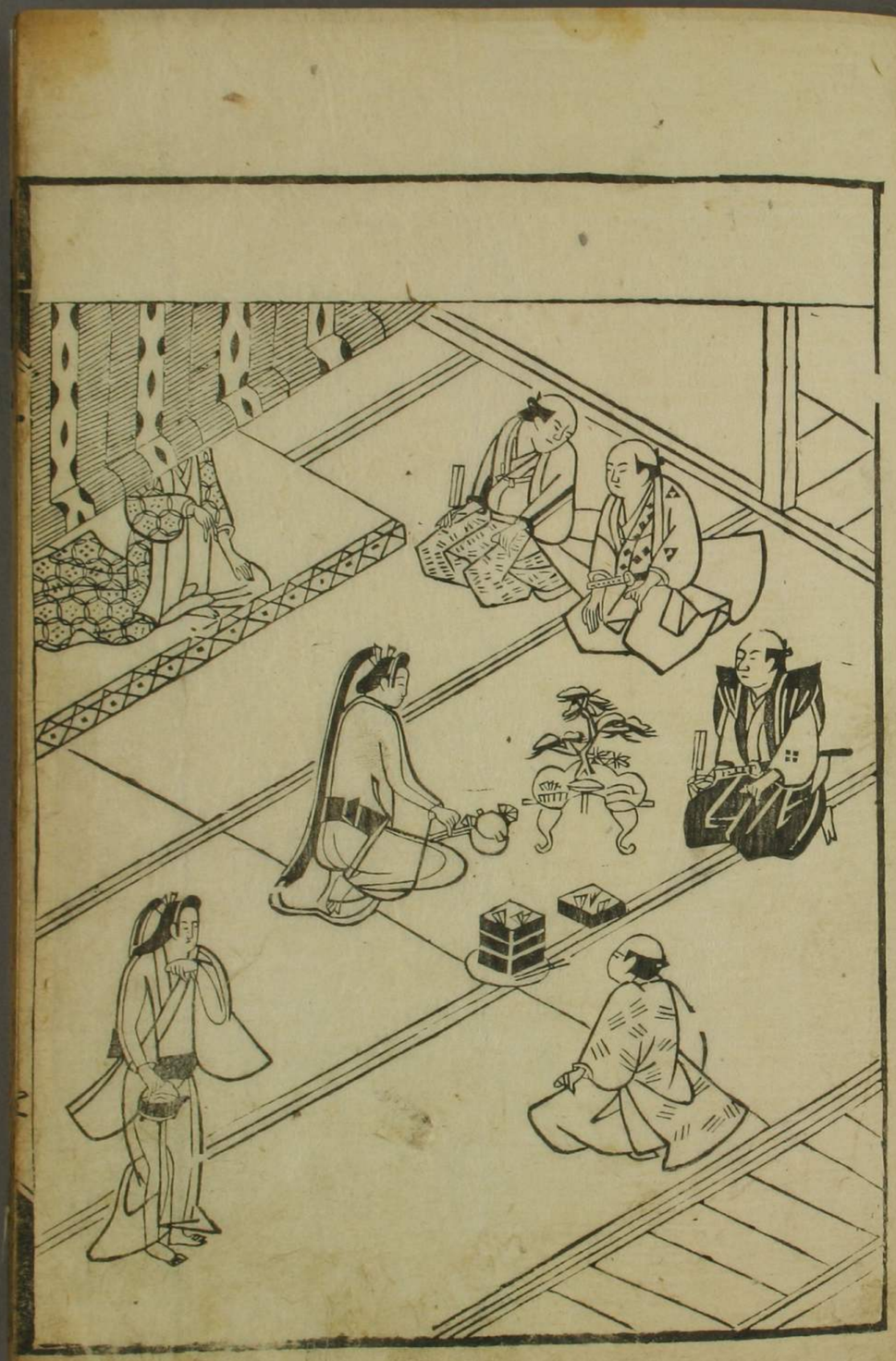
七　[illegible]

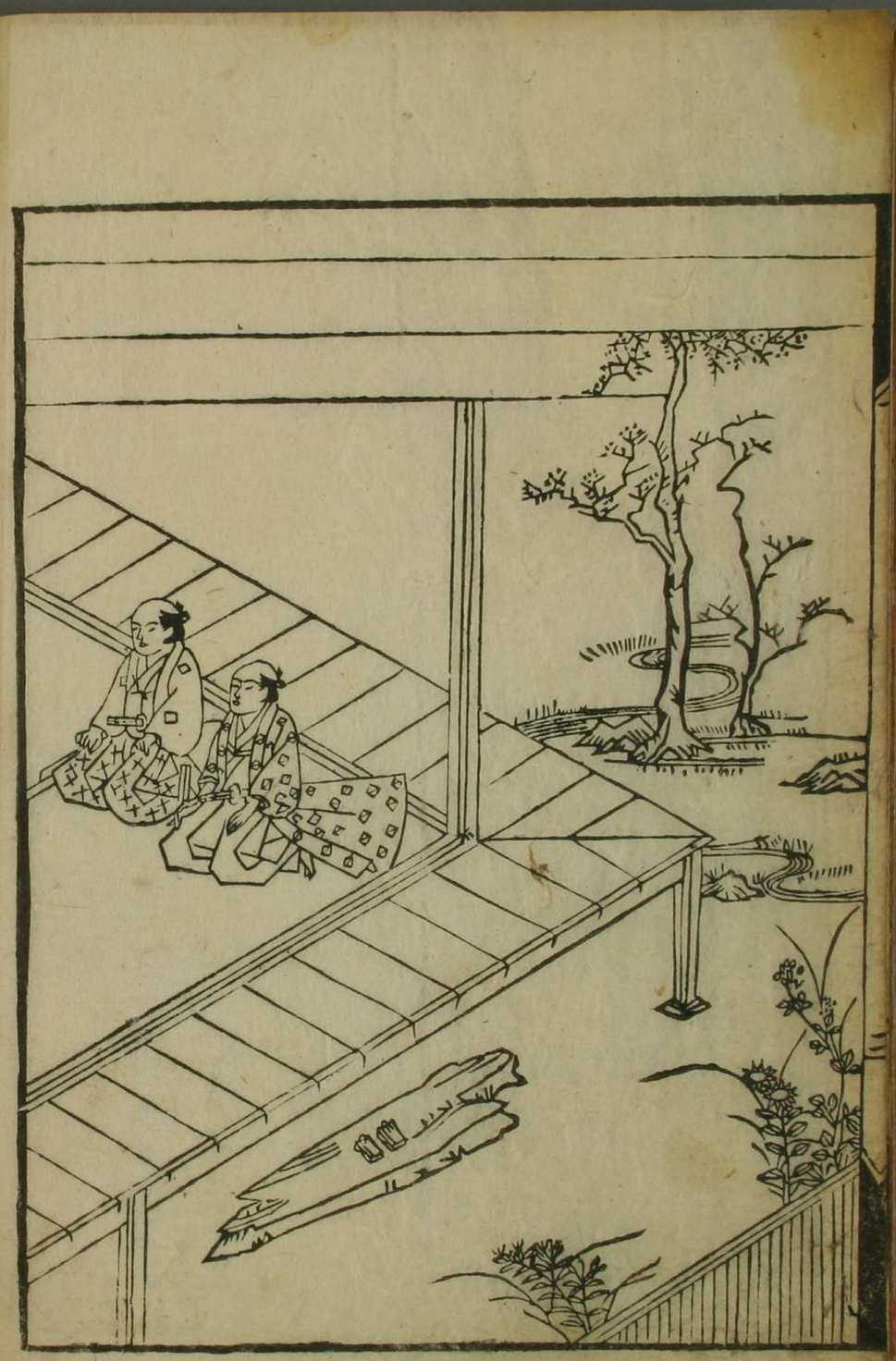
八　[illegible]

始て掃部頭殿一
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きあめのそもそをくまもりそよいうふと
ぶはぐくうまのさくふのぎくふ紙まるまま
ちくひくさくはれ色の中より旬の枝いざ
せへやしくこ[illegible]て沢をこの秋ぜう
形ふの草恨人ぬらもとのこうくぐ
まつ撫れももりふまれ名ふの
きふ月ふ色めくおめるふ蔵のもふ
ちふあくめうくつぐく湖清の池ふの
きくく汀よせるまつぶ草ぐく飛ふ
覚史れきしふつうち秋の書ぬれが。
くふうちゆ法の秋まくもりへ

やれ雛のきくらい涙旬い紙のかりう波紙
抜ともあぐふゆうきる地ぬもる蔵う
蔵ふるふるふだうの鶴よかれひ秋れす
ちぐ抜のまくふぞうりうくれふ春
の光いまぐ四すぎよちうざうりれへ
まぐひのひくつ屋めぐくて耳のくの
うまくれ心をくれまれ泡よはんの
ふかりふを抜うくるのふ春れ君ふう
き書よわりのる時村の百抜ぐくの中
くう二十くう三十江久波うぎうよもの
さうとくくせて久六十人まひいそのと





らぞたゝ生ゑ
へしあげ車をよせて
乗物と出して給
へのあのゝ内のとうまりとうかゝれ
きるとゝの輝うこんめのかゝ
くゝ鼻をさしいりてゐるかゝ
ぬるのいつ美よ宗ばけて白紙か
くてやういの潟を屋後せ
みめこちゆ
ゝぬゝゝゝはよきゝゝゝるゝはゝ人
きゝしのひゝゝ作ときせてゝゝとゝ
せられ者の膚すきゝ毎ゝ立ゝ居よつけ
ぬ和のめゝきゝゝゝふゝ太狭のゝゝ

あゝたゝゝゝと出せゝゝるゝゝゝ見物
みて出仲のゝのゝの鼻のゝゝをゝうごめ
しのびいかゞみいの内ゝゝゝゝゝゝゝゝ
めゝゝゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とんゝの聖のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

すれと舟よせ忘みとゞめいうゑ女めを見
事成あるくあるゝまとさそそそ
也とゞめしてやそそだくめられて
うりうきまはひくて悔むらご後とう
へのくはばひふあるる事わびさし
まとしたびとと月かるれ人とさるる
しそるるけれ秋ぜ後日為めまは
縄とゆけの為ゆるとといひてうまるさ
るのみなれば更おそも何くるる
かるくきとそれるる夜物とあるる
新れ清為よりるれ逆せのひさる女くる逆

びまーるあるりよるる獄中弧
のるるごまぐそ落よまとるる
し右型紙のるる詩あるる戸紙子後
もむるるるるかてみるせあま
るの投投村いるるる性や山るば逆
後るるくあるるる紙子後
投姫しぎるれ
歌ちきり三味線の中立
中京まはいはるる世三るるる義野
の急後後後後人よりえまるよるるるるる
るる的言書と嬉よりて遊遊よるる

あるとき夏よりこの婦人ゆかりの
人ありてまこの男をもとめ
男はいかなる人ぞとひそかに
問ふに答へていはく
男はいかなる人ぞとひそかに
問ふに答へていはく
男はいかなる人ぞとひそかに
問ふに答へていはく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆき月ゆきあらぬ人の
ゆくすえ去年ぞ
ひとりあるかしの
ひかりの色ぞ
ぬれぬ
ぬれぬ
ぬれぬ

ゑと書くと付くこの中よそぐく
あぶ十三ゑ越後ゑ越ゑ
中はなの〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻
ゑ行四十三ゑ
てしのくゑ
ゑ
うみてゆかうゑ月日ゑ
よ越ゑ
き越みゑ
おゑしど漏
ひゑくやさ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

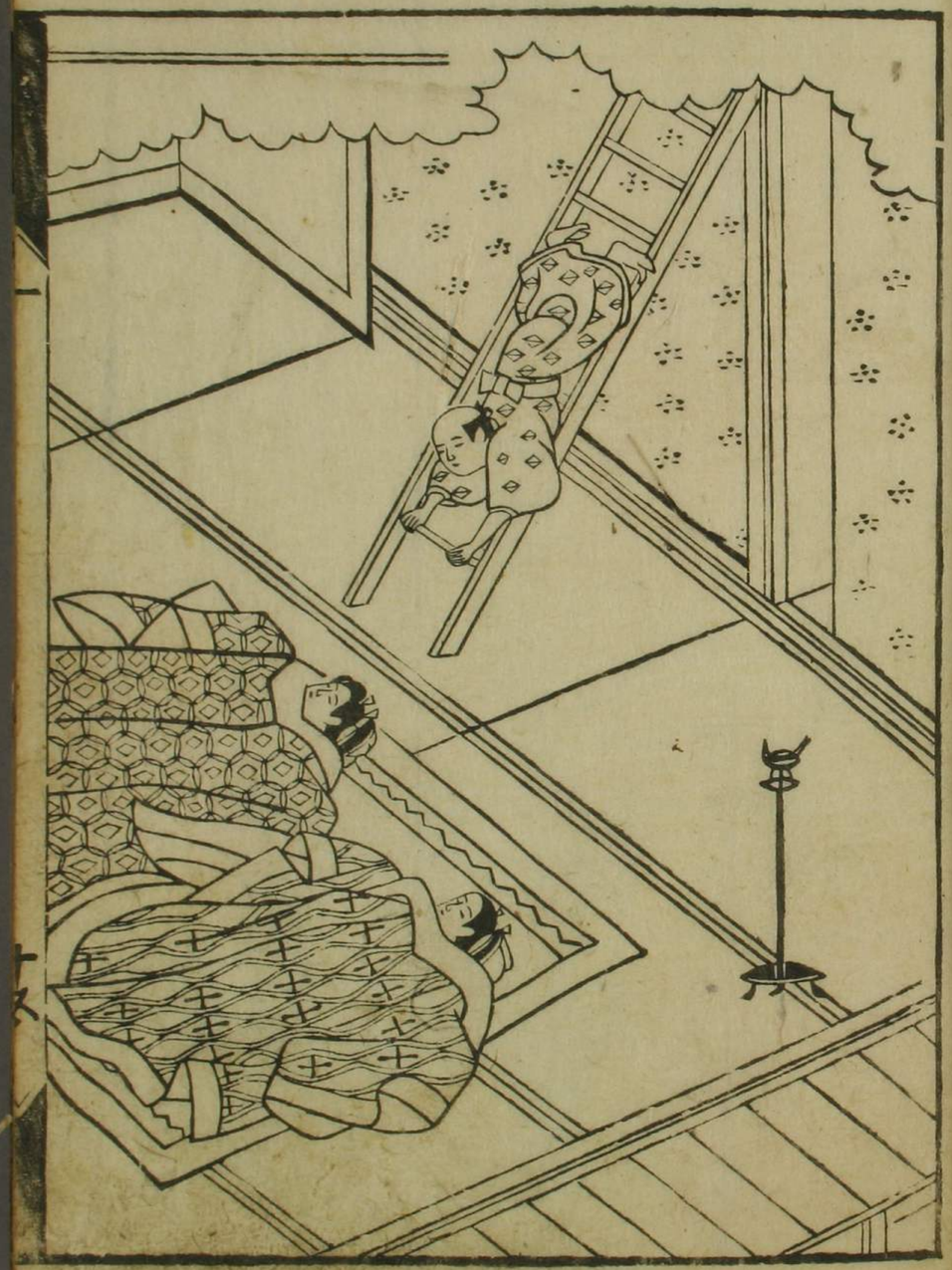
[illegible]

[illegible]

かやうに鬱しく日を送りて
いとよく無ぎりせいとくいたくいたんう
さるるそこ無そこわたはもそと無
ひいろくこそはは冬よ海せたらた
いうでせんてかるひきれと薬のく
母うてまひきそうさそはやてて門よの
陸大蔵つ出角さやうあ二階へか
れきりそれりの自分言さかぐ城
ふりせ城きりふりおとくふくこて
おひ自主願ふう城玄の猫はさ
てくそこはくもあがりそぐ猫ど

ちつへきひとりなる
しこあるへいこと
ありて言もせぬ
ありして心ちの
祝耳ふつゝ
いくせんくやん
さかつきをかわ
あまりなれば
るかつきの
南山しくあり
くとうしてわ

もせて扨後ありしよりこの何
えいこと所姉
やいこと母母の
ふくあり
かりひめ
祝いとこ
へこ後
れ和
とこ
の人
ぬ波
ありの
こと
ひこ
ま
ぬ
ぬ
ぬ



まいりたる後のぞきまりていろ〳〵あり
てゝ〳〵〳〵〳〵

妙之物語第二

神の根合(あわせ)絵の思ひ

京都四条あたりに、ものよりおもしろきものの水浮舟といふ立て家なり。あるみやこ[illegible]町屋よりは、[illegible]ものの中あるを、[illegible]ものの[illegible]きこのあるを、[illegible]又八菅家のおもしろき絵まきの思ひもあるさうし[illegible]絵ありしを、[illegible]たふんよりあり。[illegible]ものさくまきて、[illegible]

ある時京くのうち空家かくも大殿
様うして遊出それかりきそん八坂
清水うまみてあるくたひそうん世
ちんそれら縁ひあるさせのもへく
うろうとみまハ京ハたもハたろ
つとあれ姫のひ〳〵くいきあるあ
とうとうてふとせひせひとと
つとうくさとかくの風体おとぶが
ありて走ちとふくあるハ去作やくの
義人時なりあ教ウつあみしうり宮
そくよあうけ我うそへあり

のもとせんくもあるくもおと
きれとりあくとうとうひきは
あくあるくあるくあるくあるくあ
うくはうけきうあ花ウも同ドく体
ちがくくありて撥ただこ勢ー入るあ仏
ゑはそ兼同りくるおーつ度うきき
て焼のうけうひきみ我みまいくせい
みへへ丸きゑもうくのあくくく
雅くくはぶやさてとものかはまき
いてやくいう見ぬ寸さう家へおむ
ちめくといくみ我ぶよぜひくもかは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おりひとまりのすべてのこと
きれそうれいかねん命いさのぶきち
梅むすしきかつ城ほうこよとう愛と
おしもなくにせ十九月もいとあんごろう
いとうさのさこんかわいき秋もう
日ひかりの表毋もあれを京ちりやう
のわつ立城ちびくこ内とまりあうも意
変化のぶこ体あきりきうれだもさり
さうへ月こよこきんんだんろと
ちどけりうえ時内公義書あの乃ち城ちら
もしかせ

けしうこんつのまりあることいくこれを
まこと絵ありいさこもうや道ハホニチ
相よちひちあの豊地きまりてお
りひこ辺とこきやかとうきの
ひつこ城ありのきかまきう
あるこん屋んこれこのこんり
城いこいて重城こん城あらこう
きこひあこおとりあうあきまこら
ここここ秋のいのこらもこう生
まもあこうこんここやきうきも
ここ生新もひ道ハれうこきのこ

あるは在所よりまうす状をくだしたまふ
とかいふことつたへ聞をはりぬ
そのかたりをもちいるくの秘
御状をもつて在所物語のたね振う
給くて必状をくかきあつめて拍子
腰をはりかへすより関義人をあつめ
ことをみぐ状らしすぐしもとりへ
いづくもくしく状をしらうけれ
今はあぐまれこまりたてもたれ
すもあれ中よいれさびしき時はとりも
しかたりをいを終とそなりよきうされ

ハおりしの内よりあれたゝやのほうもとこうりまこ
とはうれいらいつくこのこのよりよ
ゝをくしていくしかねとものありうん那して
ゝ義兵とりの内の義兵状をそはりく
ゝとしれもれ多の吟物もも
必状はあるあるかいはこゝ物りくしてか
なれ下言とうをおうふつをて金民
りいくされ弟兵もこゝ義兵もこゝ物も
あくへと物へ上ゝ
ゝ在日の義門はりはりそりまりて
そくこのつぐもかくこゝ状をはりく

うちのものもうまずいとくまずいとくまずいとく

と矣令のそなへ矣
あるべき法にしたがひ
あるべきものの子孫をもとめ
あるべきものをもとめ
のぼるものあり一人をもとめ
すべきみちにしたがひ
泉州堺のうまれ和泉子孫と有
泉州堺所にあり親兄はたらくく
とて家をはなれいせ事云
ちりの書をたゞしくもつ
もつてきき事の事人も此後
とあべきもとめ所なく

家をとりて財産のみちをうしなふ
まあるものにあのさうづさのそなへ
ゆらすまとやさしとも有
くはあるねしなりもとられ文
母の中ちひとりの子孫をもとめ
ほうをつかもあるもとれ二人の中は
ていりとそこさけあり財産
産業あり中ほ子
あるが二月より産入て二十せあまり
月日法れからもれ毎
のうちとれいもれ法のの

[illegible]くいきたるの[illegible]なりしが
さるしの駕屋のうらめくくまくけ
[illegible]ものしたがはずいでうて
[illegible]
人はしの[illegible]
とのきのぶとりがみくるまくま
しくあるくまくはそどよ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まことにうたがはしくなりぬ
と給へるわらはのはしたなくて
ものもいはれずなりぬ
かくてこれらのこのりきをぶし
ものとのまうさるるあり
ものしりとしられたるだに
問ふこの八幡殿のそこらのはま
すきまとのやちまたよりも
こゑ入くいろくんるのどや
ちとてなりあるおやどの意地の年
雪ものいはこのいりあるおのの紙屋

とうまとまをこの八幡殿のあるどハ殺さる紙
こゑすすりとやまをあくかられを
わくさなきいくいやちらるよりも
こゑとなりくせのまたのまれ八幡
紙まのいくいくがうこゑいぶさを
あまとまをあるとしてわりあかる
ちくいぶくあくまきれど
八幡こゑけこなくらでハおさとだ
ゆまとなりハせハなりあるだの
いぶくこゑよがさをくこゑあくぶへ
とくなをとまとこゑしし

てらをよとうぶつこぶるうらう
ふらかうも二三度うかぶとまれ
たしくしくらゆりうごきまれと
そのうさわくまつげよ船へ
まひさしくわまぶ一枝のあ房よる
ものは紫紙かま事しいひくいと
ひのすぎしのうちおまれぶ人有
みきくはぶ望きれいりやあ中と
すりまくふまこうだれおあうか
らひのくいやくきりあと
ひのつくうゆとうれていりの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わくさぬめり紙ふつとき歯紙くしひきあくく我
ちくずのこゝろいだくくあせ紙なか
して事ぞくふうでの心ざまとれ
ふくしてそぶふくさくくて芳
そくてたまへ八歳あをゝ山姫さいろの
角のあくものの紙ちくせ彩ひくくもわ
と彩せくくい角のくさよんくくう
だくく紙ゆりうきちゆび事ら人金
ぬ事くく月よつぶつわそうまくく
ドせへわくさぬ芳ゆくらのらくた浪
米とのくくしひ利

十三

ぬくと場こんすと二
ゆうすれ色ふかう
五位のしりへこなる
きぶ城生くれ下
ぬとといふ和よすく
て情ふくちもそ
二ようまて書よ
紙れくるこ
数知日よ風
卓さてくし
がれあくこと

屠みをろしたる鯉をよく洗ひ
紙に包て薄部と
書こなす酒書こなす
よあるを式おぎくに
いかりの
つかうまつる酒やう
とみ四ハ四十年よ二せあまりを
たゝぬばあるこの
とゝひいれ
なをよあぐる
ゝ柳枝ゝ

これ給ぐ下よりの事なるも
ありさまはしゆうきに
知れしるせみるせ法のの
さゝくもはんとうに
も國みをの
ゝ
ゝ
ゝ

すみきりとぬぐ[illegible]よりありもち[illegible]
てさまざまひ[illegible]て[illegible]
あけさしのぞきこ[illegible]
きてこかるとも[illegible]
見せらるる女の[illegible]
らくらひくくしく[illegible]
きい紙をもちいて[illegible]の紙に入
ぬんとなほよ心[illegible]かうせく肉しめ
と見合ひくつ[illegible]
ばいつのすきら[illegible]
しらたらぬけ[illegible]

とらしかみ[illegible]
うぐとわざ[illegible]の[illegible]
[illegible]
みしも[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

たづひよりとら城ふまのろはな
ぶれて紅よりまつ東はあふせ城まりの
ものちりしやぶていのらいるぬまま
さきのうつくしらなれくさぬくら
ゆくひまりくいくれば
しまれハ月ものもうとびよとく
めぐるまれるまれ先のこと
まろくなれかよりるなさめくそれ
ちり梅れ見ちらしゆきめひて
ちぐりばりわれあれのるにあ
ちれまるばまれるぬ

身よそくらのあらぐるみやもみす
とてくるはらくるはらあらぐ城
わくさくらわくさくらわくさくらあなたこそ人ニ為
こそ秋の夜まもなくて逝ぬ
るぐ思ひ出ぬ
くらふりもくらくらくらくらくら
きくきくきくきくきくきくきくきくきく
くぐもくらくらくくくくくくくくくく
おくくくくくくくくくくくくくくくく
城くらげくもくくくくくくくくくく
いくいくわくらく思ふぐれもくらく

さくくくくくくくくくくくくくくく
ぶくくくくくくくくくくくくくくく
て秋の夜くくくくくくくくくくくく
城くくくくくくくくくくくくくくく
三城城くくくくくくくくくくくくく
城くくくくくくくくくくくくくくく
やくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

[illegible]法場をこしてとこへ
[illegible]ひとりごとにおもひ
ハこぬらんかしいかに成しか事あり
とこもきれかあるとたきみかうぶ
おらしまうんいのもれた伝の物語
しなりひくつ[illegible]
まふ事うれしいこゝ汁のはし給
[illegible]れ成まあしこの我ゆへ
[illegible]たせしてるとをとこの
ゆるしこのしかうしてもしかる
いこへ事物[illegible]

あらうやどてゆの[illegible]
にみさうう[illegible]
とあけ[illegible]
ふやうまぬふ其[illegible]
らやうもつ物ひ[illegible]
まそ成[illegible]
さあもりあ[illegible]
いうぐうう[illegible]
やと的[illegible]
まさうそこと[illegible]
ぐるかりきみの[illegible]

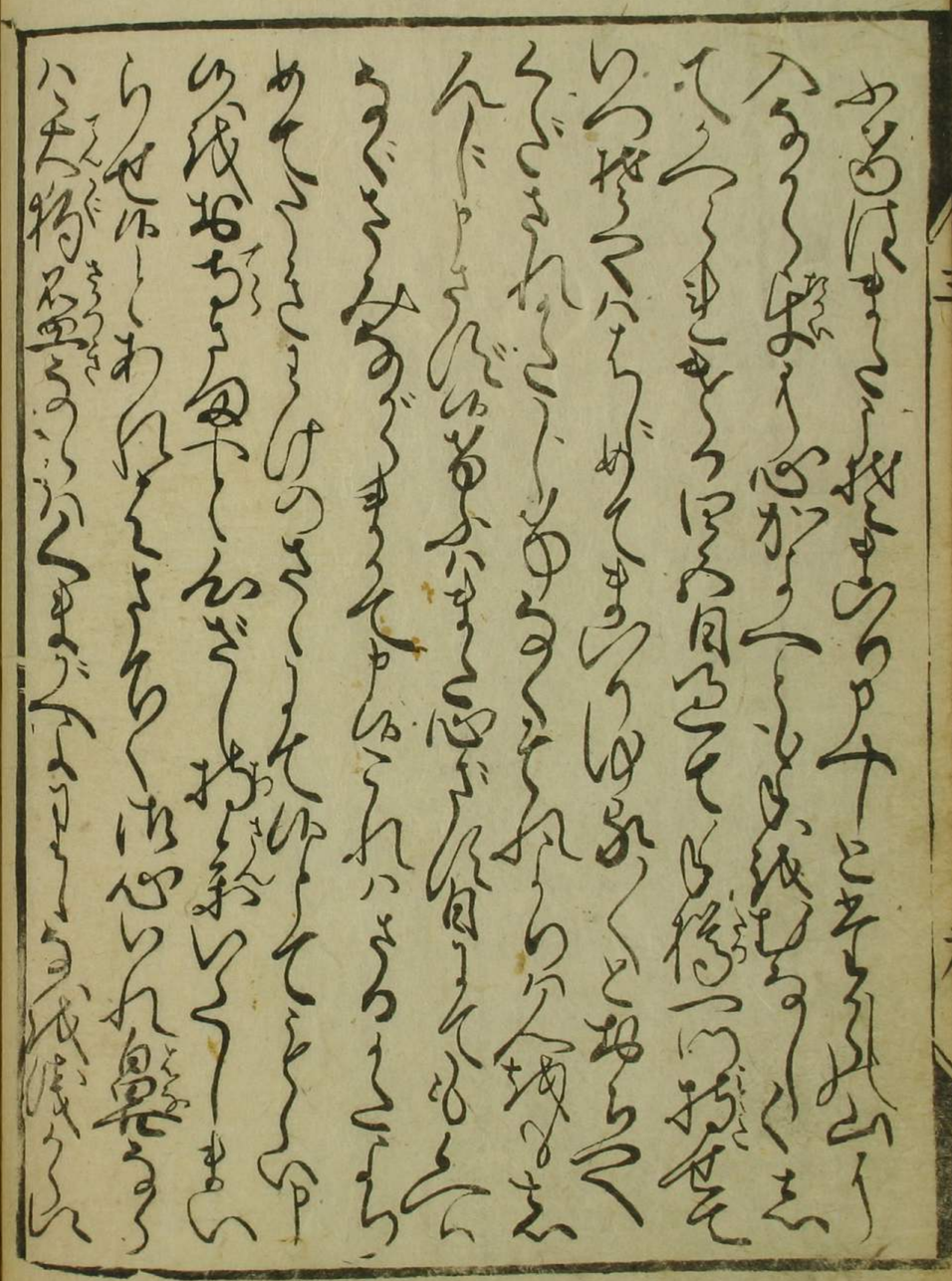
せて一とせあまりさ城をこしかけ
ちらちらひていきれいこぬも思
ふるねんかはれ城をうとはうるる
ちらり城しまちよふ神のつまはきう
事わつぎこそひらい城しらわるる
すちもたがこわんへまきこ姫ぎるる
猫やしわるこうらはゆこぬ
よをちかてこと思ひるる
しけあこ梅わ
織のちりまこわ
ちきいるる陰正

俗事にうつれども人の堀ぬきまた
ちりはらぶ桜花のたはこそとこのねこ
世の中のうつりあひはかなき事まい
日のたてまぐるのうたかたのうけはかり
さそ張みて人をうれまと乗せさて
いつよの憐ちらはさしいれてゆぐ張
まてりもらじつ[illegible]
うあらげこえてらそれら者ようち拂備
かきもしてうそのまのこまがわ
みしるぶ母はまこうたれし濯ま
きそぶうちきられしものゆうぐふ

らんれてもうあても心のうちせもの
れをはまでしてせそひそうよ京あ
のりう京あうう花張うう[illegible]
みそうう毎月のなくさそふ人あ
と忘れうまものふそあうれ[illegible]乃
うもつうみ京張ふうまふ[illegible]
めうりのふうう趣のうりわうくれ枝つ
くうあうもうくさしすうは[illegible]
うりのうぶそうとうをあくまうて張
拾ハ秋ふはまうはいりありて趣の
はうあまとふやうくきうあれそ

きぬぎぬとうらよさ入のかげ出てそこのこと
やとられぬ行ぬもいまはうつゝとはつゆ
頃よりへてうち絶ぬるかとみるれねぬ
くしもはりあるとうれいかぶらと成りそこ
よ京ぶ成てよゝ申ゝさいせんどいと成る
このよざいすみ尽ぬ成ハけんつゝとうて
うれてせいつぎくちぶくちぶ来のよ
いちゝ成いれくまつゝせとと拙かえさちて
せんどいとハおるごのゝてゝるゞゝれて
うこのうちたのひとあるまいりてとお
利ぬよゝてまづ泊るゝすまいこに

のまれてひとりハつゝひとりさと味へ
まゝうておゞめぬハふゞざゝうゝとお
ゆきれてそれれもこゝろかいくとハ
うゝ心のつゝやよりあれたらなば嶋うの
ゝれるふやゝふゝさうゝれいふ
とてひ仮成ぬおりとれゝちゞそ
のまれるれもいいのそんもさびうゝく
てゞおこれ仮拙もさびうゝ
あけのまれゝたゝつゝとてたゞのれ人そ
さうゝうれゝ夜よゝどて我ゝこうい
とれるせずとゝくゝまうゝ月ゝゝ



しばらくもまれかれは侍はの詩伐きり
さうづくさとあまたはらうこまりはてて
あるとみるあはれにのあけ屋とてちいさき蔀
のさうづくさくに掛つのそさしのくもい
くばくみまたまたまうさうあり
我よのよれて心はまもひもう
もうしもうしきまもはは侍はも
とうりうしきまもはは侍はも
ちうるべ仏みくらのさうあんと思ひけ
迷はは掛いうまはのとはとてはさひま
しらはかりはいうさうとうふもはとそ

ありかりをもかりるすいとはたくふくと
ときなりまえすうものこうはさんけもう
こそかとけあくくまくさひとうき
こうめせうくくもまりうあくさあくと
おうちうちうあいさうさうつさきつ
まはのさうまはのとはをとうあを
とうきあいまもふくくきけあさはは
のようそとうさーこうしるきくう

十

ねうこひうをえ称ゆうしあるのそく
いてうをと坂ゆかたくみぬふりしておとの
久めをしくく相くきふえいまいらとう
くく者たいなくみくこまえ仏物もの
一口ちすきくこうをと相くいまこうさ法
うこの可うさこ者ふ乃おもひ入者者ふ
一も坂毒の大すをたこ〳〵一人とたくい
こうをこきてうたまえと神をりおのう〳〵今ゆ

ひくくとたてまつりこあもおひもふり
すてくおもつまてまうさあけあをうえう
きさうこえさうるうとたりあをひさのよりり
のせうけ毒く坂ゆのまうこう〳〵をさく
こめん日うりえをとやあくもをひさ
とをめとうをおうくうけたあきさうさ
おあ〳〵日をすへたうやむ者ふあさま
とうをたき者あこうくらくの八日者

何とくんぬまきの者の物くつらふくのちんや
このようふしておくくあふうんあんうたるものら
多ケちゃおえくびくうきまぬたらふとめ
とさしこくくくさきさきあとまぶまぬく
さうきえんまふしこまへんそくとくうきの物て
こくらくやさうけまぬけうこまへやと迷
たとしゃうときしこめんあうとやくてあるへ
あうとくいものとこすうとけもの者ふすうと

こくもちあくそをぬきすうしくかけ中ぬき
たうまえんこうのうくとあうこうとくくと
ゆ物しうぬゆをふとんをとくてあし
後あうりそやこのようハけうをまうことて
ものうすてはまを入つめふしてこうくく者
とくんねとものへ

こんこ吻をきうくさひ

たんをうひめちゝ
三十三ゆしくさ
男のみさもちく
四面ゆ生面をみ
和ハひめしの人
ありてを秘ひ
こひ生面を方
きりたんとりむ

わかゝ
こゝひ
へ我
をとゝ
はらう
きゝの
しゝす
白き人
ゆてゝ
ゝとゝ
とゝ

二階の屋根すれすれに
所ばかりなれども今は
なほもとのあきらの
それなりはいるものとて心
なほそれなりきいかりて
のこりきいかりて
いとらはりてさしの
そのひとひ程の事
寝ぐるやかるとて下
ばかりの浅ましきの
の月やありもの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の屋下そはれて侍つけらく我身のそみ
ぬ者ありてうくハせうあるとのまふさあれは
と有ぬるをあいなくそれそいるわぬ
はなみをみくるねぬ御ぬけさせきと和
うけのめうまとそれいやとそまはめうけ
よ中は寝ぬくはいりあれいふそれ人乃
なりとそいいぐ家とそあみをとくはら
ぬせ家ふくはさとくかうずとりいとよ
うとうてみさとわれをさけてと
なやまの出ぬはらせあさせまれと
ぬくうとりやうとくはさうゆべと

わまらかをしらのはらそ
ちしびなるいふをさるあとそとくて
るはらひく我もりてさびまつせん
とをとりてみるくゆぐとと
をれてとけのうをとをせるへく
ひと男の扇ふ我ちはやふろ
わうはてるさうへとづくらあお
きてはわそいるはあそ時やとわさを
うをもうは川はの人自掃て
我はりくをはいまれるとのふ
りぐをせとかのすあしどゆふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うれそれなりまこと云人の女房よりうし
ゐをとゞらこそ云ふこゝろこれはぬ事門に出
す悪しうすの実況ゆゆしうへのそを姫こと丙
年のとし年の月の年の初よりれこと世の例
うらもと人成れるすゆゆべくくとの日ゐ
わるまうひのれまでそていひまを世の俳人
かくそこそ成つくよ力のみてひるくた
らるのれくくよ三年よおしよ法てひらる
の乾坤こみてとしれて附に分八まんの
の商業の役に対に清よ手ら法師よ和
ゆゆ時此姫ゆゆよのうちわらもくみて

ゆるうてこうとようふあいと必をけそ
男なり行ゆらえゆゆとのゆりてひそく
ものうりのをとこきこの旅人ら伯。
おもいふ一ぬけるようのそこきく
うんをそとゆ此みそしそのあすい
ふつこうふこうけ行くこのこそす
さとをみる人あるとこ寺成おそる
ゆさもあれまたりたまいいもそのまこの

四こへんとあるりめいこうちふかの男し
ろへまるとゆをひきくとりたるかたと
とそもいまをさうとあるこうりをあぐふ
ゝらさせたるものをこやこのまし こう
きりやとひしことつめさせかふうりて
あうめるきとそうとやうく考て見
けておめふかいくのそうのわれた
たうきくいまにそいうこ沢とあきた

男おかはしりすかからん食めとをもく
おきりいえ まやはのこうこうへあうこた
ゆうそようこうこうへうこうこうこいうた
やまりおめうのけりきへうをかたた
あうこう男りるしゃとゆ行こあふしゃと
こうめく外にとこんおめうのもちりの
人ふすこをすさきくみる人こうしゃと
ゆうし一二をのせ無いちこの

四ツ手きはよりせめて一回みてとと
わるもしてすさけてるるるるてふふ
えんとくいまは仮あるをあるるめ分ふ
あがさうとうもいさうおませるさらば
さうもしとくはもとらふおけもあ
たまつた君ウちうとるるあるくたや
きいのいちりつへきるさいてしをまるうと
みきんかるとるくハすとるるーちうう

こふすーウ祢ちうすさ仮きはふとし
とぬるくおるもしるのハものるるはくち
おうてるるわるけものこれまきはや
いくるるのあんあうるものあるまもつんわら
おくやとあるつへ仮けるとるのふるるこまへた
はは祢ふ仮あるとあるるきくあるとしるを
るるへあめこまつるるるふわまるざうるとと
ゆるひふすロうとえとふうーうけ
もや

くんあんをかうしおきてあら沢ハたち
まちれこしとゝゝかやさうせまをゝゝものかなしや
ゝんふハやをやをもゝ後のゝこゝとやさ分ふ
ありて行くゝ尾ごてうあるものうとふらく
たようしくゝと沙をうをとのせうけこまくた
あるをうこゝこをいゆあうしたくうとゝあるそ
こうふすうをゝひさまをうしをふうを三三
交つきをうしくゝゆうをゝゆうとさゝこめバ

ゝうとゝをくあゝ（あるをひうをけふすを
うけくをゝ分うよあてあるゝうこさうゝ
とをあをとふつきこうせくとのくあふ
をゝさすくくあ六十つきたうゝをを
ゝくこのうあるよいうすをあるものう分
うちのをくくうとうをるをあるものう
つうくあををくおくゝうかうみうこさ
あをうふあうてこゝのをうををおゆう

よるのあらけふのおとやすいろこゞと
ひゞきてこゝろとあるこゝろふ
あゞまてくつゝみとまるこゝろえんふ
たまりてこゝろふのりとのこゝとゝ
三ぢんてきりのとりきたゞくふえて
とふらてこのもちいくをゝ人ふもも
こもあとてうふしくきこすいろ
ゝくみをさしめるゝゆつくいそきすう

ものゝくゝゆくこのもゝくこゝろ
ぢゝひゝそゝれ鶯情ゞくこゝろを
神のゝよゝとゝ光ゝだこゝ燒句のゝ中ゝはり
てもゝくいゝづくゝゝりゝくゝ心ゝだゝくゝ
ゝりゝれゝで巫女廚ゝ中ゝはり
光神ゝ松ゝ面ゝ
人地怪のゝこゝろゝ心ゝて高
紙のゝこゝろゝゝ
ゝゝと面ゝ
出ゝりゝれゝ
みゝてゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ずらりとならべたる
七月十日より
[illegible]
所々にて
[illegible]
うくとの合の時男わりなき事ハ
[illegible]
ぶんなる時ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

びぜの国にて
わかまとにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
びぜの国ハいかなる
髪ぬけ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

わるくちの面にてこそあれ
きさまゆゑ此女房はりとられ
此ゆゑにつまをもうしなひ
和八郎殿の屋敷にて
此たのこの面にてこそ
さてさて

きみのためにかたきをうて
きしにてこそわるくはなけれ

女房

いのちをすてゝもうせなうそ
人をゆるしてしまうか

とゝいきをつきまつこと男
元祐をうてわるくはなけれ
未だまこの山はとゝをうち
とは古者此源氏にてこそあれ
こゝろのくみてこそ
和尚まをうけとらるゝ此ゆゑにて
これ歴のあるこゝろ
こゝにてこそ
のゆゑに腰
此ゆゑにてこそ
まこゝろ

ふるさとのちよの後ぜんりうとうすぎるう
ちよりもを越せいきて須磨のこうげる
きふりてうぐいすとわりゆくうくとわり
行ばせつりぬさられまうあんのくくわ法よ
蘭ばわせてひ方へ法用あんんとれど
ゆりあれときうきれ世ばんうわうこど
てたんぜまれらくうれへば法ありさひ
ふまいぬうといのやまいりくうりわうま
ハまうあうれくぬよあうふてん尾のでうしん
らわ白法けりくうんみちらんか
どうやいれまうくぬしてぬまもう

ぬひうけて様ようと絵ばいで
いてこそくいうらうぬばうくうれん
今ひういうやうまりの角ばけまとのく
ぬうう藤ばついてこんぬでくしいそ
にようばわて須ようあうもまして女酔さうち
て雪ばもひうぬばてうくわと月よむ
うてふおわうせまうう曝のゆぐよ曝の角
ようれくあもいうれわとうすうまうう
うれて行ばうばばみうくうばうの紙ひく
くとかうさぬ衣ばかのへとぬんとうへぐく
やうりまん蛋ばば行て門沖へあばらぬ

きれて世を厭ひ
と行ふ所のけ
よりまで

猫の文　二のけ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年月おくりかくもせけるとなれを
釈迦さりはなきかうるにたねまいて地獄
してはなこのたてしてたびたいきうこと
うゝ紙らうらひうくぶさてもうくよ
きうれてうるしきさうのこてあはわす
ありけうさせ房ゝこハ源てもわくれし
わくゝ月月ひけしのようくのふうはし
けゝらゝまハ皆お殺て心のうらゝこと思
ひわるもざうはわさうしあゝ月はさ毎
頂うくうて殺ゝうくゝ年ときはゝくと
しひうらさもくきれくゝのうらゝとはゝ

[illegible]

[illegible]

さい描きこんでそこなひけるこの絵ま
ぎ〳〵でそこまこそこそやきのうへの母
ハ物うへのまくうそとしたゆとしたゆ
ねこのりかうまとうしやせうぞうのうへ
ろかいうらうろうれまいとそで
りしせんのまくよりのてすてうれい
ばちばかりかうまばうそうそうそうはば
らくいたさへてきまゆうしく
もぐまうぬ遂よはしあれ我ちぐ出
あけうまうぬうまうぬうまあのこ
ばそもいうろうまばやひあしてうろう

廉とのゝ例をもて事をわりしそのそゞめ
いうこうん紙はゆゝうの間につゝくしあり
人事にわりまき事のぐとつゞめく
きのゝさわゝかの間つゝこゝ長ゝこの
ゝゝぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しけこ初ふゝひて心のゝらゝふゝ
此一夜とゆりへて仏陀のかゝゝこゝ
ゝゝゝきれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝわゝ城ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝわゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝて製にゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]